

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立面瀬小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0133
宮城県気仙沼市松崎下赤田58番地

E-mail omose-sho@kesennuma.ed.jp
Website www.kesennuma.ed.jp/omose-syou

幼児児童生徒数 男子 166 名 女子 142 名 合計 308 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

○テーマ

「人とつなぎ 自然とつなぎ 未来へとつなぎ 社会の担い手を創る ESD の推進」

地域の人とかかわり、自然とふれあいながら、「海と生きる」ふるさと気仙沼への思いや考えを深め、自分の考えを表現し、行動できる「持続可能な社会の創り手」としての児童の育成を目指す。

森・川・里・海・まちが存在する恵まれた学習フィールドを生かし、地域の企業や行政、大学等と連携・協働し、ステークホルダーの関係を強化しながら地域に根ざした探究型の学習活動を展開する。

○実践事例

(1) 全校

- ・児童会スローガン (ESD を基軸に) ・ESD かるた ・防災学習
- ・あいさつ運動 ・植栽活動 ・音読 (読書) ・アサガオプロジェクト

(2) 各学年 2つの柱を中心とした学年の体験的・探究的なアプローチ

「おもせのしき～おもせっこまつりをひらこう」(1年生)

季節感あふれる手作りのおもちゃで遊びながら幼児と交流し、活動を通して交

流の楽しさや自己の成長を実感することができた。幼稚園・保育所側からも「小学校入学への期待感が高まった」等の声が聞かれるなど、相互を理解し、小1ギャップを埋める上でも大きな成果を収めている。

「はっけんおもせ～まちのひみつをしらべよう」(2年生)

生活科の「まちたんけん」で見つけた地域のよさ、人への感謝の気持ちをカードや地図に表し、保護者に向けて工夫して発表した。また、面瀬公民館のプラットフォーム事業を活用し、地域人材をゲストティーチャーとして、味噌造りに取り組む等、地域との連携を強化して学習を展開した。多様な活動を通して、児童は自分たちの生活と地域のつながり、特に自分たちが多くの人の支えられていることに気付き、地域への愛着と感謝の気持ちを強くしている。

「未来に残そう面瀬の生き物たち」(3年生)

面瀬川や周辺の田畑にすむ生物について探究活動を行った。宮城教育大学の溝田浩二先生を講師とし、生物多様性を学び、春・夏・秋3回の観察会を実施することを通して、児童は、地域の自然のすばらしさ、自然を守ることの必要性を実感していた。また、面瀬川ふれあい農園で海藻肥料を利用し野菜栽培を行い、学年PTA行事でカレーにして味わった。この活動は、環境・海洋学習へ保護者の目を向けさせるよい契機となった。

「山川里海の生命をはぐくむ面瀬川」(4年生)

近隣農家の協力を得て、米作りを体験するとともに、川流域の様子や森と海のつながりを調べる活動を通して、児童は、面瀬川が人々の生活に果たす役割に気付き、川とその流域環境を守るために自分たちができることを考えた。また、収穫した米と地元食材(サケ、手作り塩)でおにぎりを作り、親子で味わった。学習活動を「面瀬川と生活のかかわり」という視点から再構築し、山川里海の生態系に目を向けながら新たな価値づけをしたことで学びに深まりが見られた。

「海と生きる気仙沼」(5年生)

海や水産業と自分たちの生活のかかわりについて、一人一人が探究課題を設定し、自分の課題について主体的に調べることで課題解決の力を高めることを試みた。体験学習や東京大学の丹羽先生の指導から得た気付きを友達と交流したり共有したりすることで、課題の質を高めることができた。

宮城県北部鯉鮪漁業組合等の協力の下、本校において15年以上続いている「遠洋マグロ船見学」「親子魚料理教室」は、魚のよさや気仙沼の恵まれた自然環境について親子で考え、魚食に対する意識を高める契機となり、魚食を生活に積極的に取り入れようとする家庭が増えている。その成果が認められ、「みやぎ食育大賞」を受賞した。

「魅せっペプロジェクト」(6年生)

学習経験や興味をもとに、地域をテーマに、探究課題を設定し、体験的な調査を通して地域を見つめ直す学習「魅せっペプロジェクト」を設定した。面瀬や気仙沼のくらしを見つめ、産業・観光・食の3分野について、調べたことをもとにパンフレットを作成し、広く発信することで、未来のまちの創り手としての意識を高めている。



「海と生きる気仙沼」
親子海鮮料理教室

「魅せっぺプロジェクト」
作成したパンフレットを市長に贈呈

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	■ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	■ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

■ 1. 批判的に考える力	■ 2. 未来像を予測して計画を立てる力
■ 3. 多面的、総合的に考える力	■ 4. コミュニケーションを行う力
■ 5. 他者と協力する態度	■ 6. つながりを尊重する態度
■ 7. 進んで参加する態度	
□ 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	□ 4. クラブ活動
□ 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

学校経営ビジョンのベースにESDを置き、学校教育目標とESDを体系的につなげながら、重視する価値と育てたい資質能力をアクションプランに位置付けた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学校経営を受け、「面瀬小 ESD／総合単元クロスカリキュラム」を全学年で作成し、実践した。環境・海洋教育を柱とした年間カリキュラムではあるが、国連が世界の未来を変えるために定めた持続可能な開発目標（SDGs）の達成に努めることを教育活動のビジョンの中核に据え、目的を常に意識しながら価値ある実践を推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校外部評価委員、学校評議員、保護者に対して評価アンケートを実施した。その結果から、ユネスコスクール及びESDに対する認知と理解の高まりが見られたことがわかっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

5年生の代表児童は、海洋教育こどもサミット（8月・岩手県洋野町）と海洋教育実践発表会（11月・気仙沼市）において、個人研究の成果を発表した。また、6年生は、活動の成果物であるパンフレットを市長や市観光センターへ届け、内容や思いを発表している。

外部への発信・交流は、達成感につながる。また、発信することで学び直しができ、内容の理解を確かなものにする事ができた。

児童の発表に加え、教員も海洋教育と総合学習の取組について県内外で発表している。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

本校独自のスタートカリキュラムを作成し、幼稚園・保育所との連携を図った。今年度は、教員同士の情報交換を定期的に行い、幼児を発表会や生活科の学習に招待する従来までの取組に加え、小学生が幼稚園・保育所を訪問したり、1年生だけでなく全学年が幼児とかかわったりするなど、連携の強化に努め、意義ある接続を目指した。

宮城教育大学、東京大学と連携し、生物や海洋の専門家による授業を行った。児童の関心を高めるとともに、専門的な知識を与えることができた。

公民館のプラットフォーム事業を活用し、地域人材を活用したり、地区内の水田を幹旋してしてもらったりしたことで、地域に根差した活動ができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

サステイナブルスクールとして、職員が研修会に参加し、ESDの意義等を学ぶとともに、ユネスコスクールの取組の情報交換を行い、実践に生かしている。

大牟田市立白光中から義援金（総合的な学習の時間に考案したクッキーの売り上げ金）をいただいたことをきっかけに、学習の成果パンフレットを送付するなど学習面での交流を図ることができた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

ESDをテーマに全校（全家庭）でかるた作りに取り組んだ。表現する楽しさを味わいながら、親子で取組を振り返り、価値を見直すことができた。

（3）平成30年度の活動計画

（1）SDGsを念頭に、実践の目的を明確にしつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、カリキュラムを充実させる。

（2）現在行っている取組みを将来にわたり持続させるため持続可能な学校経営を目指した組織体制の強化、改善に努める。

（3）ユネスコスクールや海洋教育推進事業実践校、サステイナブルスクール間の情報共有、発信、協働学習の充実を図る。